

5 学生の受け入れ

2005年度以降に設定した目標

1. 博士前期課程入学試験制度（一般学生対象）を改革する。

進捗状況報告

（1）の目標を達成するための具体的取り組みの進捗状況

（1）「2003年度に設定した目標」の1については、2004年度入学生（学部）より早期卒業制度を設け、2007年3月、経済学部では3名が本学大学院への早期進学希望で早期卒業した（経済学・社会学・経営戦略研究科へ各1名）。したがって従来の飛び級制度は2005年度をもって廃止となった。2については、2005年度より、試験回数を1回（11月末）から2回（11月末、2月末）に増やし、試験範囲を明確化し、本研究科ホームページで外部から閲覧できるようにしている。3については、経済学を学んでいない受験生をも想定し、試験問題の作成については、本研究科ホームページで公開している試験範囲内で試験問題を作成し、それを別の教員が確認する手続をしている。4については、外国人留学生に対する英語による試験と英語による面接は実施していないが、外国人留学生の入学試験の英語の試験問題に関しては、外国人留学生の英語能力が優れている場合、英語で答えることが出来るように工夫している。5については、国際機関との協力の下で、外国人留学生の受け入れを積極的に推進することについては、実現していないが、外国の大学との提携により、外国人留学生を受け入れることを検討している。

（2）の2005年度自己点検・評価で記した「改善の具体的方策」の進捗状況

1については、2006年度から研究演習を通じて大学院入学試験説明会のPRをし、一般学生と外国人学生に対する入試説明会を実施している。2については、近隣都市部での大学院主催ワークショップは実施していないが、学内で実施している本研究科拡大ワークショップで学外大学院学生に報告してもらっている。その活動を通じて、本研究科の活動を外部に紹介する役割を果たしている。3については、社会人を対象とするエコノミスト生のための大学院入学試験を2005年度より年度末である2月末にも試験を実施している。

学内第三者評価

2003年の目標のうちの「5. 外国人留学生の受け入れの積極的な推進」および「2005年の改善の具体的方策」である「2. 大学院主催のワークショップの開催」以外は概ね達成され、評価できる。

留学生の受け入れ推進と大学院主催ワークショップは、今後実現されることが期待される。とくに、後者の構想の基本姿勢は評価でき、大学間や演習の共催でも差し支えないと思われ、まず実施することが期待される。

なお、特別委員からは以下の意見があった。

・募集のターゲット設定（内部からの進学、他大学生、社会人、留学生など）が不明確な印象がある。全方位で進めていくということか、あるいは絞り込んでいくということなのかに関して検討することが必要である。